

減災ニュース

和田三丁目東町会

2012, 08 減災プロジェクトチーム発信情報Ⅲ

震災救援所(高南中)の概要

震災が発生した後、家屋の倒壊や余震の危険性などで自宅での生活が困難と思われる皆様は、まずは当町会が運営に参加する高南中学校に開所される震災救援所に避難されるようお勧めいたします。

火災が発生し類焼の危険が迫ったときは、当地区の広域避難所である「蚕糸の森公園」に行く選択も可能であり、それは各人の自己判断です。

以下に震災救援所の機能などの概要をお知らせしますので、今後震災が発生した際の皆様の緊急行動の参考にいただければ幸いです。



左 震災救援所の
高南中学校正門

右 震災救援所
(避難・救援拠点)
杉並区防災課



防災倉庫内の一部



備蓄品の一部 車椅子,担架



- 1、救援所の立ち上げ： 震度5強以上の地震発生時に高南中に設立される。
- 2、受け入れ対象者： 上記のごとく災害により、自宅での生活が困難になった人達が対象であり原則として当町会在住者とする。
- 3、救援所の運営： 杉並区役所職員、高南中関係者、当町会役員による共同運営。
- 4、機能： 避難・宿泊スペース、炊飯、避難・災害情報の提供、備蓄品の配布、被災弱者への避難誘導・安否確認等。
- 5、備蓄： 食料品；1日3食プラスαは備蓄済。
2日目以降は他所より供給される予定。
飲料水；備蓄」及び蚕糸の森貯水槽より必要供給される。 毛布； 800枚
- 6、収容可能人員： 最大限 1,138人
- 7、避難者(推定)： 500~700人(1995年の阪神・淡路大震災と同規模震災で)
- 8、三丁目東町会人口： 約1,300世帯、住民 約3,000人
- 9、その他： 医療ケアは杉十小学校にて受診可能。
また、最低限の生活必需品(医薬品、乾電池等)約96品目が備蓄されています。